



河合 邦彰 先生

神奈川歯科大学付属
横浜クリニック インプラント科
神奈川歯科大学 卒業
日本口腔インプラント学会 専修医
日本歯周病学会 認定医



児玉 利朗 先生

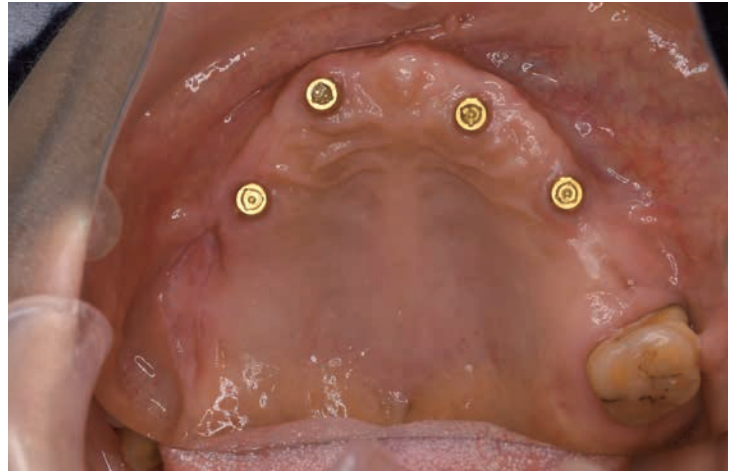
神奈川歯科大学大学院
高度先進口腔医学講座
インプラント・歯周病学分野教授
同附属病院横浜研修センター・
横浜クリニック院長
神奈川歯科大学 卒業
歯学博士
日本歯周病学会理事・指導医
JSOI専門医・指導医

シムプラントガイド、アストラテックインプラントシステムEVを使用して上顎ロケーターオーバーデンチャーを作成した症例

嘔吐反射がある患者にとって、総義歯に準じた、口蓋を覆うような上顎義歯を装着するのは苦痛を伴う。そのため、義歯形態を馬蹄形にするなどの対応をすることがある。

また嘔吐反射がなかったとしても、義歯床で口蓋部を覆わないことは、味覚や温度感覚がわかりやすくなり、QOLの向上につながる事が考えられる。

今回は軽度の嘔吐反射があり、現在の義歯が安定せず不満もっていた患者に対して、シムプラントガイド、アストラテックインプラントシステムEV、ロケーターシステムを使って治療を行った一症例をご提示させていただく。



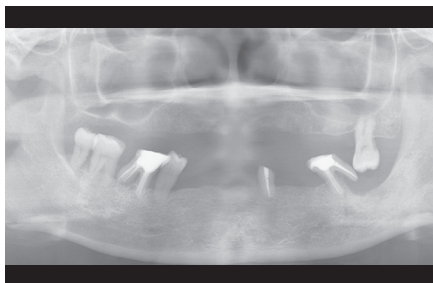
1. 初診時の唇側面観。患者は現在の義歯に満足されておらず、特に上顎義歯が合わないとのことだった。インプラント固定性の義歯を作りたいと希望され、当院他科担当医からご依頼を頂き、当科に来院された。



2. 初診時の義歯装着時上顎咬合面観。支台歯は27のみで1歯であり、軽度の嘔吐反射もあって義歯は馬蹄形であった。義歯の安定が悪いため、患者曰く物を食べたりしゃべっている途中で義歯が落ちそうになるとのことだった。



3. 下顎咬合面観。歯周炎によってアタッチメントロスを起こしており、46,45,36は前方へ傾斜している。



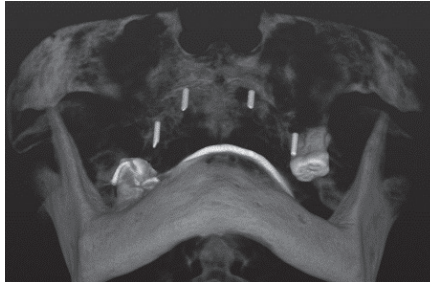
4. 初診時のパノラマX線画像。下顎は47,48以外を抜歯した。上顎の27は支台歯として保存した。また、残存歯は咬合平面に合わせて削合し、最終補綴装置を想定した暫間義歯を作成した。



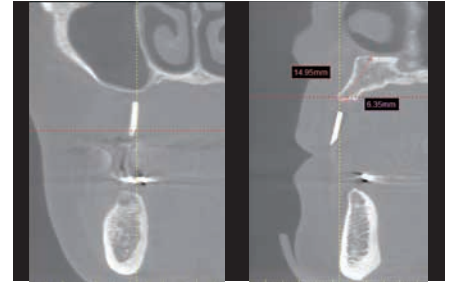
5. 暫間義歯装着時の唇側面観。最終補綴装置を想定し、理想的な咬合平面及び高径を付与させた。下顎義歯はこの義歯で満足されたが、上顎義歯はまだ安定しないとのことと、ロケーター義歯作成の意思を再確認し、治療を進めることで同意を得た。



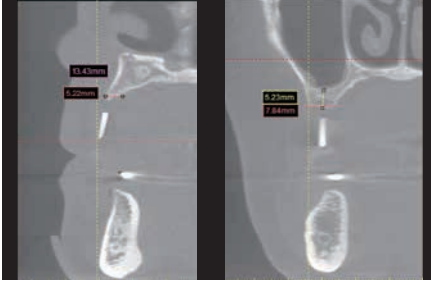
6. 上顎の残存歯は27の1歯のみだったため、埋入ポジション想定部にステンレス線を入れたCT撮影用のステントを作成した。このステントを患者の口腔内に装着してもらい、CBCTを撮影した。



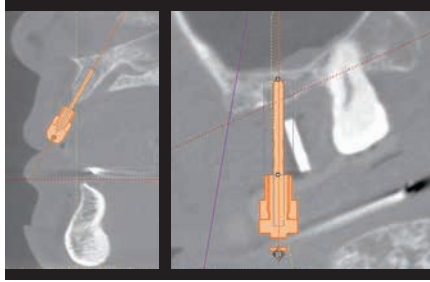
7. 次に、撮影したCTデータをシムプラントに取り込む。上顎にステンレス線が4本写っているのがわかる。



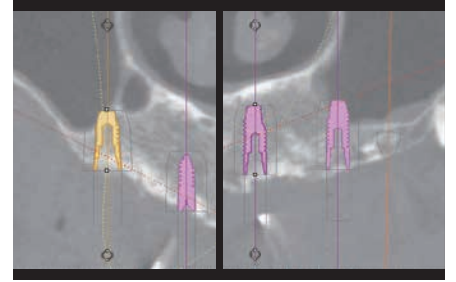
8. 16,13相当部のクロスセクショナルスライス画像。13相当部は歯槽頂の頬舌の幅径は十分あるが頬側中央に軽度の陥凹がある。16相当部は歯槽頂から上顎洞底までの距離がなく、この部位に埋入するには側方開窓テクニックが必要となる。



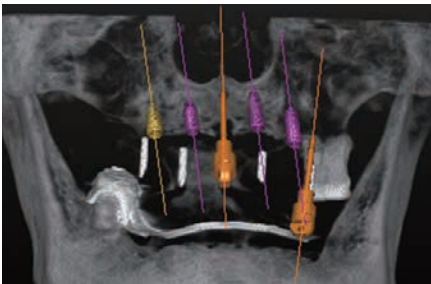
9. 23,26相当部のクロスセクショナルスライス画像。23相当部は頬舌の幅径がやや少ないため、リッジエクспанションやGBRを検討する必要があり、26相当部は側方開窓テクニックまたは歯槽頂アプローチでの上顎洞底挙上術が必要と思われる。



10. 残存歯が一歯のみである。歯牙支持のガイドは難しく、粘膜支持のガイドになるため、固定スクリューの設計をする。かたつきを防ぐため、11,21間になるべく長く固定スクリューが入るように設計した。



11. 患者の希望で大きな骨増生を避け、骨量のある15,12,23,25相当部にアストラックインプラントシステムEVを配置した。15,25相当部はオステオームテクニックを行い、23相当部にはリッジエクспанションを行う計画を立てた。



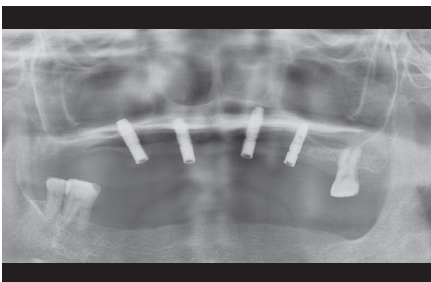
12. インプラントと固定のためのMDJスクリューのポジションを最終確認し、シムプラントガイドをオーダーする。本症例はオステオームテクニックやリッジエクспанションを行うため、パイロットガイドをオーダーした。



13. データおよびCT撮影用ステントと石膏模型を送り、作成したシムプラントパイロットガイド。



14. 2本のMDJスクリューで固定はしているが、残存歯が1歯のため、ずれたりしないようにしっかりガイドを押さえてドリリングを行った。



15. 埋入後一定の免荷期間を設けたのち、ロケーターアパットメントを締結した。骨吸収もなく経過は良好である。



16. 旧義歯(上)にロケーターキャップを入れ使用してもらい、慣れたところでチタン床の新義歯(下)を作成した。ロケーターキャップが収まる部分での義歯床破折を防止するために、メタルフレームで裏打ちをする設計とした。



17. 新製したチタン床ロケーターオーバーデンチャー装着時の口腔内写真。将来的に27が抜歯になったとしても、増歯・修理するだけでそのまま長く使える。上顎義歯が落下せず安定したことで、患者にも満足して頂けた。